

視察報告書

令和4年6月3日

松阪市議会議長

堀端 脩 様

松阪市議会議員

蒼水会 深田 龍

日時：	令和4年5月30日（月曜日）13：30～16：00
場所：	黒部市社会福祉協議会（富山県黒部市金屋464-1）
ご対応者：	黒部市社会福祉協議会・一般社団法人 SMART ラボ：小柴徳明様、高村千恵美様
作成者：	松阪市議会 蒼水会 深田龍
目的：	福祉施設、法人における車両管理効率化・事故率抑制に向けた連携に関する3者連携協定締結式並びにふくし版移動シェアサービス市内3法人における乗り合い実証実験が今年度開始され、経緯や今後の計画を調査するために視察する。
内容：	<p>【SMART ふくしラボについて】</p> <ul style="list-style-type: none">・介護の人材不足、福祉サービス供給キャパも不足が大きな課題⇒ 施設同士の連携強化が必要（本当は事業統合等をしたいができない）⇒ データの活用 EBPM を重視した政策立案が必須。「ライフ」による支援データの活用など <p>【社協とふくしラボの関係性】</p> <p>□ふくしラボ設立のメリット</p> <ul style="list-style-type: none">・広域的な活動のプラットフォーム⇒ 黒部社協は黒部市だけの問題に取り組む団体地域に限定しない活動が必要（広域化したい）・調査研究機能の強化と独立⇒ シンクタンク機能を強化・持続可能な事業推進体制⇒ 豊田モビリティ基金の研究事業費をもらって事業の確立を目指す⇒ Social Welfare Mobility As A Service の実証実験（乗合バス）

【ふくしラボの目的】

- ・ネットワーク化→デジタル化→データ活用→DX
- ・人材育成の場づくり→住民主体のまちづくり
- ・全体の最適化

まだ伸びる介護需要予測に対して、どう対応していくのか？

⇒ 具体的な3つの事業を行っていく

①SW-Maasの推進（ふくし乗合バスの運行）

会員になれば月250円/週一回

- ・障害者の移動手段を確立することによって、就労の幅が広がる

自動運転を導入しようにも、小さいスケールだと人がやった方がコストはおさえられると思う。自動運転を入れるならそれなりのスケールの大きなものが必要になってくる。

- ・決まったバス停を定期巡回。利用者は現状一桁台。

②研修・人材育成

交通安全プログラムを作成して研修を提供する

⇒ 高齢者や障がい者の移動時に大きな事故が起きたら、法律が厳しくなる可能性がある。今からドライバーの研修プログラムをつくって準備しておく。

③ICT活用

MDS ひだか（200～300人/日）30台くらい日々、稼働している
アプリ「福祉 MOVER」（＝「ゴーTAXI」と同じ中身）

【将来展望】

- ・とやま型デイサービス（地域共生ハウス）構想

福祉のデパートのイメージで一か所に様々な福祉施設を設ける

- ・訪問介護・看護や施設へ行くデイサービスのDXが必要

賃金は十分なものになっていても、人材は来ない。

⇒ 働きやすい職場・やりがいのある職場をつくる必要がある



所感：	<p>今回、報道で受け止めた黒部市社協さんの取り組みは、高齢者や障がい者の移動手段の合理化だと理解していた。しかし、真に取り組んでいることは地域福祉のDXであり、そのためのシステムづくりであるということを学ばせていただいた。どの自治体・地域・家庭など大小に関係のないコミュニティで抱える介護問題に真向から望まれる基軸には「シェアリング・エコノミー」の概念があることが感じられた。今あるものを最大限に生かすため、余っているものを他者と共有する考え方で、合理化や効率化を目指すシステムの構築を目指す姿に期待せずにはいられなかった。</p> <p>高齢化と人口減少の大きな問題に、社協と一法人が主体的に取り組む中心には、地域の未来を本気で考える人がいることを改めて知らされた。人の想いで地域の未来は大きく変えられる。</p>
-----	---